

第2回 令和7年度障がい福祉分野におけるしごとの魅力発信業務プロポーザル選定委員会

開催日時	令和7年7月31日(木) 14時から15時半まで
開催場所	メイシアター3階第1会議室
事務局	吹田市役所 福祉部 障がい福祉室
委員	委員長 障がい福祉室長 委員 高齢福祉室参事 地域経済振興室参事 シティプロモーション推進室参事 男女共同参画センター所長
議題	(1)プレゼンテーション及びヒアリング 参加事業者：1事業者 (2)事業者の決定
議事要旨	(1)プレゼンテーション及びヒアリング ・事務局よりプレゼンテーション審査の流れについて説明 ・提案者によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施 (プレゼンテーション15分、ヒアリング20分) (2)事業者の決定 提案事業者は1者であり、見積価格が提案限度額を超えないこと、評価点数の平均が最低基準点の6割を上回っていることから、提案事業者番号1を選定事業者とした。

(主な質疑)

	委員からの質問	提案事業者の回答
1	・ボードゲーム ゲームを通して関わりを持つことを考えているとのことだが、学校行事に組み込む際にはどういうイメージで考えているか。	高校や大学の授業内に組み込んでいく。実際に高校で授業と連携した実績がある。具体的にはキャリア教育の授業が考えられる。過去実績では呼びかけて希望を募ったところ、120名以上が参加。吹田市では5か所の学校を想定している。
2	・市報すいた 内容としては障がい福祉分野で働く人に注目するイメージか。	最初のページではお店の紹介という形で興味のない方にもフラットに届く形、2ページ目以降で障がい福祉のしごとが見える形とし、より興味を持った方向けに作成することを想定している。

	委員からの質問	提案事業者の回答
4	・謎解きイベント 過去実績があると思うが、過去のヒヤリハット事例について聞きたい。	車いす体験でヒヤリハットが多い。対策として専門職を配置し、専門職からのレクチャーを受けて体験をしていただくように対応。 7名程度の経験者の配置とプラス40名程度の配置を行っている。なお、10年の中で事故はない。
5	・YouTube 動画制作 事業終了後も活用した他市事例等はあるか。	動画を納品する形で事業終了後も活用している自治体がある。 動画を再度市のホームページでアップロードし直し、活用が続いている例がある。
6	・独自提案 (SNS 広告による広報展開の強化) 具体的にどういったものか。	市と相談となるが、市のアカウント、事業アカウント、事業者アカウントの方法で SNS の発信が可能。行政の SNS の方が反応は大きくなる。
7	・独自提案 (SNS 広告による広報展開の強化) 実際にこれをきっかけに就職につながった等の事例があれば教えてほしい	提案事業者自身が障がい福祉サービス事業所をもつ法人であり、10年以上継続する魅力発信によるブランディングの成果で、職員の平均年齢が 50 歳前後が一般的な中、提案事業者の運営する事業所は平均年齢が 28 歳である。 市の特色も踏まえ、提案事業者のノウハウを伝えていけたらと考える。 離島からの広報依頼による発信により、12人移住した実績あり。
8	・YouTube 動画制作 長尺動画の再生回数の実績はあるか。 2,000 回の再生回数達成は実現可能か。	提案事業者独自の動画の実績として、3 年程度で 800 回、ドキュメンタリーは半年で 900 回。 広告をかけずにアップしている介護系動画としてはたくさん見ていただけている。 今回は、広告をかけて動画配信をすることを想定しており、広告をかけることで再生回数は増える。 2,000 回は十分達成可能な数字と考えている。
9	・トークイベント 福祉分野に興味がある、社会課題への意識のある人を対象とし、関心のない人を入れていない理由は何か。	仕様書で設定されたターゲットである転職層で設定した。低年齢層には幅広く、20代30代以上の転職層については興味のある人にアプローチする取組とした。

	委員からの質問	提案事業者の回答
10	・その他 小中学生が障がい福祉分野に出会った後、就職選択の際まで、興味を持続できるような工夫、実績について教えてほしい。	今回、1年の委託事業ということで、難しいところではあるが、小学生が気になった時に情報を掘り当てていくことができる、出会うことができる導線をつくるということを継続することができれば望ましいと考える。 今回の提案で言うと、子ども同士でイベントに参加した際、保護者へのアプローチにもなる。子どもが楽しんでいた姿をみて、保護者の抱いた印象がいつか子どもの職業選択に影響を与えると考える。